

／ ライフケアサポート情報誌 ／

こもれび

K O M O R E B I

特集

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で
見えてきた現状と課題



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252

□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2021

vol.35

SPRING



新型コロナウイルス感染症拡大下の 済生会鹿児島地域福祉センターにおける 課題と対応策

済生会鹿児島地域福祉センター所長 吉田 紀子

新型コロナウイルス感染症パンデミックの発生から1年以上が経過しました。

春爛漫の候、入学式・新学期や入社式・新年度の開始も、3密自粛下で、弾きたい心を抑え、喜びを数人で静かに噛みしめる光景がみられています。

現在世界中がコロナ禍による歴史的転換期を迎えています。

これまで感染症が歴史を変えてきました。紀元前12世紀～5世紀～の天然痘、6世紀～14世紀に中世を終結させたペスト、第一次世界大戦の終結を早めたスペイン風邪(5億人感染、5000万人死者)(日本は2380万人感染、39万人死亡)などです。

新型コロナウイルス感染症は2021年3月29日現在、世界の感染者数は1億2711万人、死者数278万人と、スペイン風邪に比べて未だ感染者や死者は少ないものの、新型コロナ感染症の影響はスペイン風邪を上回る状況となっています。グローバル化による人や物流の動きが当時より遥かに大きいからです。

従って世界文明の危機ともいわれています。

新型コロナウイルスパンデミックの現状は、治療法の習熟により救命率が向上し、ワクチンの開発・接種により、予防の手立てができたように思われますが、一方で変異型ウイルスの出現による新たなパンデミックも危惧され、また、感染症後遺症に悩む方々も多く、人類は当分の間新型コロナウイルス感染症とともに生きることが求められるようです。

このような体験・経験を経て、わが国では新たな価値観のもと、各省庁で今後の社会や社会政策の在り方が検討されています。

主な方向性は、人口集中型から分散型の地産地消型の産業資源を具備したコンパクトコミュニティづくりへ、デジタルトランスフォーメーション(ITやSNSを駆使した生き方)、ワンヘルス(人と動物の健康、自然生態系の保全)、自然との共生策等ですが、一方でわが国は超高齢少子社会であり、社会保障制度の持続性やQOD対策等が引き続きの国家的課題でありますので、国民と社会の継続のためには、今後はコロナ禍による社会変化を加味したアンチエイジング対策、QODの向上策等が必要となってきます。

実際に、研究機関の調査では要介護者が増加していることが報告されており、コロナ禍のもとでのフレイル予防は重要な課題です。

一方で、野村総研等の調査ではデジタル機器を駆使して生活している人はコロナ禍のもとでも生活満足度は向上しているという報告がなされています。



これらのことから、今後は高齢者が現実の空間（リアル空間）や交流のみならず、仮想の空間（バーチャル空間）や交流の手段としてデジタル機器を使いこなし、フレイル予防や要介護予防に繋がる生活をする支援が必要であることが示唆されます。

今回地域福祉センターでは、今後のサービスに反映させるため、ご利用者様やご家族の方々が新型コロナウイルス感染症下でどのようにお過ごしなのか、何に困っておられるのかについて調査をさせていただきました。

結果はやはり、「運動や外出が減り、筋力や足の力が減少」しておられる方が多いこと、利用者家族共に「不安や寂しさ、気持ちの落ち込み」など精神面での課題が認められる一方で、良くなったこととして、「家族と過ごす時間や会話が増えた」、「散歩やデジタル機器を用いたご家族等とのコミュニケーションが増えた」とされる方が多いことが示されました。そのほかに、良かったこととして、「散歩やウォーキングの機会が増え健康的になった」、「風邪をひかなくなった」、「衛生観念が高まった」など自助努力の向上と成果も認められました。

調査結果からも、新型コロナウイルス感染症下であっても意識が変わればできるウォーキング等のセルフケアによるフレイル予防対策や高齢者であってもデジタルツール等を用いたコミュニケーションの活性化が課題であることが確認されました。

高齢者にとって、デジタル機器は敬遠されやすいのですが、デジタル機器の操作は認知機能の低下予防効果もあるという報告も見られますので、今後高齢者に優しいツールの開発と認知症やフレイル予防目的での活用が必要です。

鹿児島地域福祉センターでは今回の調査結果からの示唆を新型コロナウイルス感染症とともに生きる時代において、感染予防と併せて、ご利用者様が心身の機能低下を予防し、より健やかに生活いただける支援に活かそうと各事業所で検討しています。

各事業所で、これまでの取り組みに加えて、さらに積極的なデジタル機器やIT活用による健康増進・フレイル予防・認知症予防や癒し、また看取りの場での活用を目指したいと思います。

ご家族の皆様もご希望を出していただき、またウェブによる交流会などに参加していただければ幸いです。ご利用者様もご家族も関係者の皆様も、コロナに負けず、コロナを機会として、可能な場合はデジタル力などを獲得し、互いを思いやる自制心と併せて、よりたくましく生きる力を高め、子や孫に伝承して参りましょう。



新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で 見えてきた現状と課題



新型コロナウイルス感染症の国内での患者が確認されて1年が経過しました。感染は思うように終息することなく国内の感染者数は47万人以上、死者も9,100人を超えるものとなりました。当センターでは、厚労省や自治体等からの指導や指示の下感染対策を行い、利用者や入居者の安全と健康維持を目的とした感染対策を図って参りました。今後も現状の継続が予測される中、実際利用者等にどのような変化が起こっているのかを知るために、利用者入居者及びそのご家族にご協力を頂き、アンケート調査を実施いたしました。

目的

利用者やご家族への変化を伺い、見えてくる課題に応じた介護サービスや生活支援の充実を目的とする。

方法

対象者への聞き取り及び郵送により実施

対象者

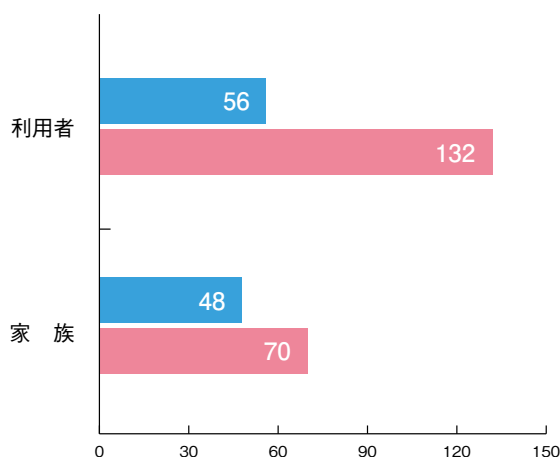
福祉センターの在宅系サービス利用者とそのご家族、及び施設系入所者のご家族

集計数

利用者…188名 ご家族…118名

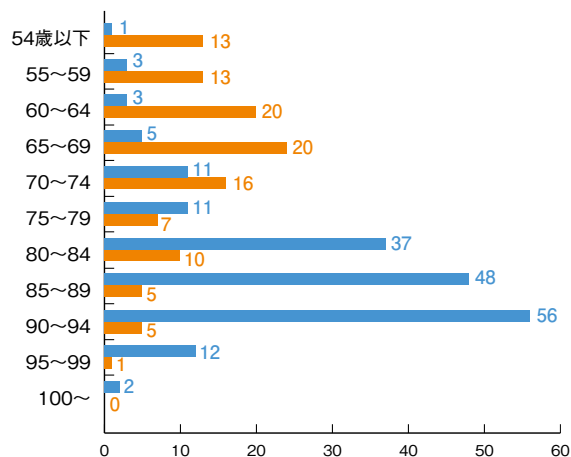
性別

男 女



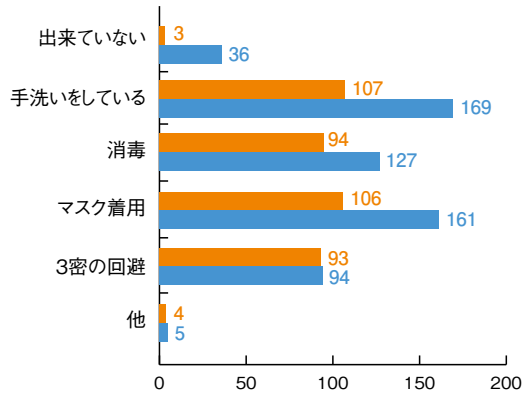
年齢別

利用者 家族



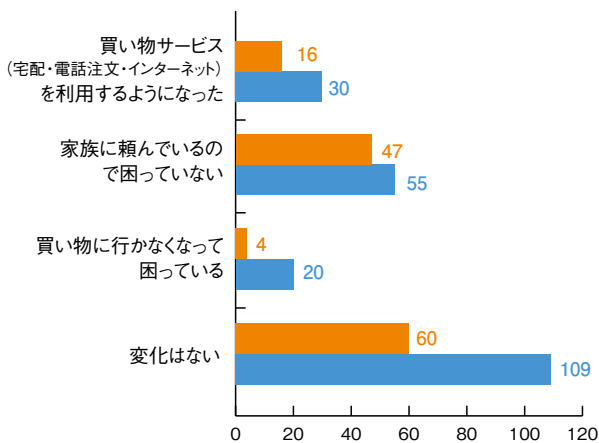
1 感染予防策について

感染予防対策は概ね実施できていました。



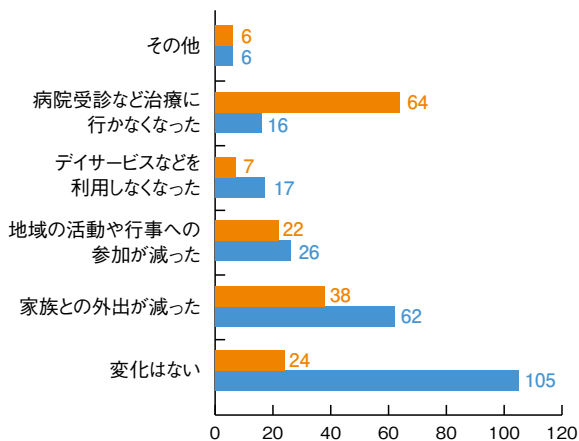
2 買い物について

利用者について、「買い物に行かなくなって不自由している」との回答が多い。



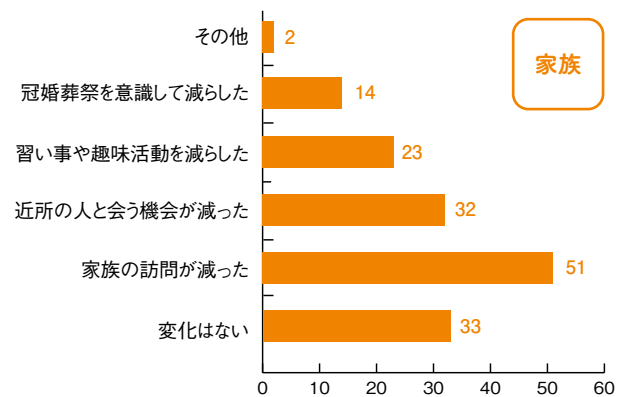
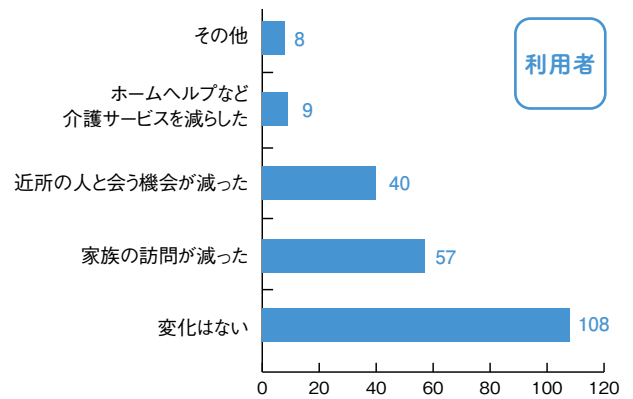
3 外出について

家族で「病院受診など治療などを控えた」との回答が多い。また、両者とも「家族での外出が減った」との回答が見られた。



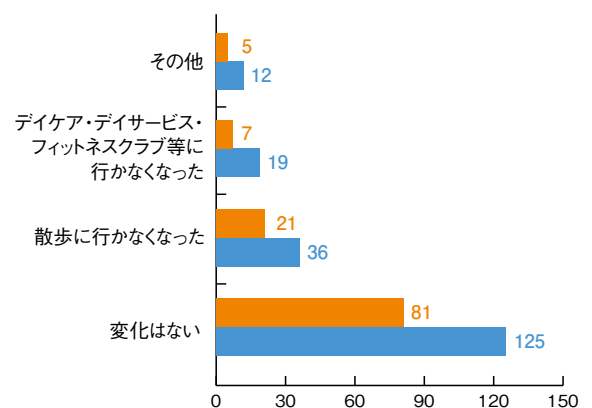
4 人との接触について

何らかの活動の制限が見られる中「家族間の訪問や近所の人と会う機会が減った」との回答が多い。



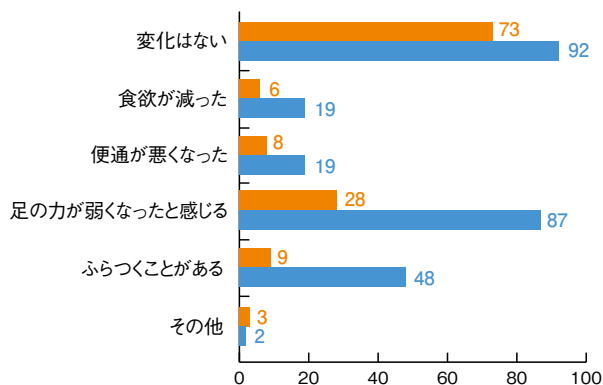
5 運動について

「散歩に行かなくなった」との回答が多い。



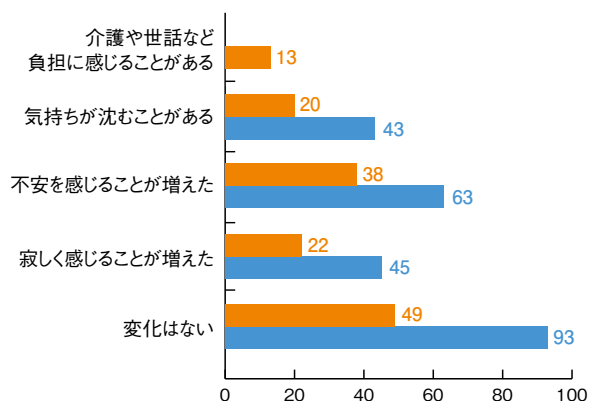
6 体調の変化について

「足の力が弱くなった」「ふらつくことがある」等の回答が多い。

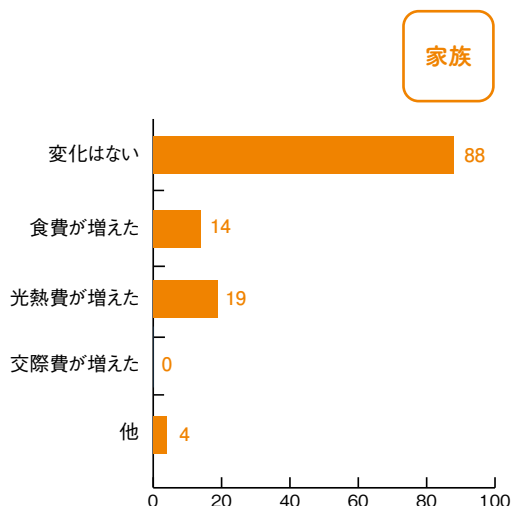


7 気持ちの変化について

「不安や寂しさ、気持ちの落ち込み」等、利用者家族とも心理的な変化が見られた。また、家族だけの問として「介護や世話などへの負担がある」との回答があった。

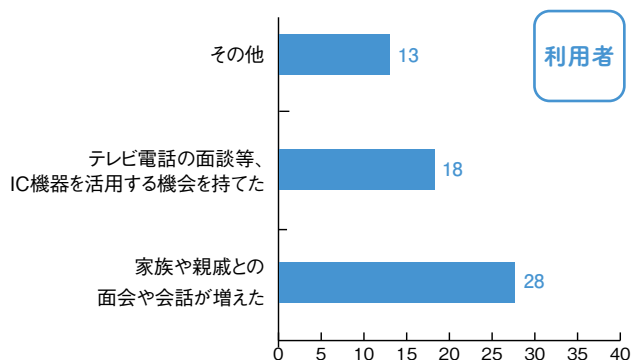
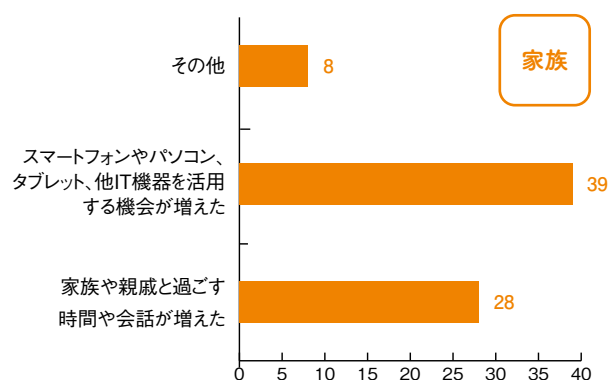


8 経済的な負担について



9 以前より良くなったことについて

「家族と過ごす時間や会話が増えた」の回答が見られたほか、家族は、「スマートフォンやパソコン等のIT機器の利用が増えた」との回答が多く見られた。また、その他として「時間ができたことで散歩やウォーキングの機会が増え健康的になった」「風邪をひかなくなった」「衛生観念が高まった」等の回答が見られた。



【考察】

今回のアンケートを通して、多くの方々が感染予防に取り組む中、日常生活の自粛や何らかの制限を余儀なくされていることが分かりました。活動や参加を自粛する中で、体調や気持ち等心身への影響も伺われました。

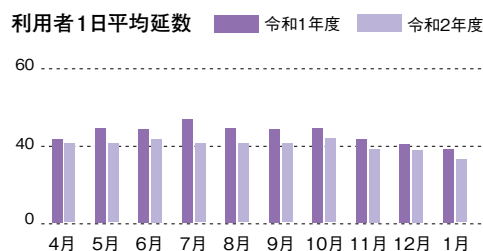
令和3年度は介護報酬改定が実施されます。「自立支援・重度化防止」の推進を掲げ、認知症ケアや看取り介護といったケアの質が評価される中、業務負担の軽減やサービスの適正化、質の向上などへのICT機器の活用も評価されます。また、感染症対策の強化としてBCPの整備や研修の実施等も盛り込まれています。

私たち福祉センターでは、今年度の介護報酬改定も踏まえ、今回のアンケートから見えてきた課題の分析を深め、今後のサービス提供や生活支援の充実にも努めていきたいと考えております。



武岡台デイサービスセンター

新型コロナウイルス感染症流行により利用者様の生活様式の変化がみられ、昨年度と比較すると著明な利用者数減少が認められました。特に感染が流行した11月以降は令和2年度で一番利用者数が多い6月の1日平均利用者数42.9人に対し1月は37.1人まで減少し、新型コロナウイルスによりデイサービスの利用を自粛される方もいました。



外出制限による運動量低下の改善のために

外出制限による運動量低下が懸念されるため、エアロバイクを設置しリハビリを積極的に行う事で体力、筋力低下の予防に努めています。

◀エアロバイク(負荷量が設定出来、距離、消費カロリー、心拍数が確認出来ます)



手作りの鳥居で参拝

初夏の「そうめん流し」や新年の「初詣」などの外出行事等を中止した事もあり、事業所内に季節を感じて頂けるような飾りつけを実施しました。1月には、「手作りの鳥居」を作成し、実際に参拝していただき初詣気分を味わっていただきました。模倣ではありましたが、皆さんに大変喜んでいただけました。

◀デイサービス内展示、左の鳥居に鐘がついており実際に参拝が出来、絵馬を書くスペースもあります。



飛沫防止対策

デイサービス利用時は利用者様の座席にはパーテーションが設置されており飛沫防止に努めています。マスク着用はもちろん送迎時の検温、アルコール消毒、送迎後の車の消毒も実施しております。

グループホーム武岡ハイランド

日本で、初めてコロナウイルス感染が確認されてから、1年が経ちます。この1年は変化の連続で、入居者や職員のストレスは大変大きなものでした。そこで、グループホームでの変化や取り組みなど紹介いたします。

まずは制限されたものとして、①家族、知人の面会中止 ②外出行事の中止 ③訪問系サービスの中止などがあります。このような中で、懸念されたのが入居者の身体機能や認知機能の低下です。

表1 日常動作の状態		令和2年 1月	令和3年 1月
自立	声掛け、指示にて一連の動作可能	2名	1名
一部介助	自動的な動作能力は保持されているが、食事、排泄、入浴などにおいて、常に介助を要する。	9名	8名
全介助	自動的な動作が困難で、身の回りの行為、全てにおいて常に介助を要する。	5名	2名
寝たきり状態	何とか車椅子に座ることは出来ても、意識的に体を動かすことが極めて困難な状態。	2名	2名
著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。		1名	2名

認知症高齢者自立度の状態		令和2年 1月	令和3年 1月
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる。		2名	1名
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる。		4名	4名
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする。		4名	3名
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を要する状態。		3名	4名
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。		4名	4名



【表1】

身体機能、認知機能ともに若干の低下が確認できます。やはり家族との面会が出来ないストレスや、様々な活動が制限されたことが大きな要因と考えられました。そこで、タブレットによるTV電話を取り入れました。久しぶりに家族と顔を見て、話をする入居者には笑顔がみられました。

まだまだコロナウイルスの脅威は収まりそうにありません。引き続き感染予防対策に努め、これまで実施できていた活動についても、WEB等の活用も踏まえた検討を進めていきたいと考えております。

シルバーフラット武岡台

2020年1月、日本においてコロナウイルスの発症が確認され、当施設でも不要不急の外出自粛をお願いしなければならぬ状況となりました。



図1のグラフは入居者様に記入して頂いている外出簿をもとに、生活上必要な病院受診や福祉サービスの利用を除いた私用での外出回数の統計をグラフにしたものです。コロナウイルスが拡大し始めた2020年の2月以降は、前年に比べると平均60%程減少しております。知人や家族との会食・ショッピング・観光・趣味活動などの自粛に協力して頂いたことが結果の要因と思われます。自粛要請に伴い、ボランティア講師の協力による施設内での趣味活動やマッサージ等を余儀なく休止することとなりました。自由な外出や施設内外での趣味活動の自粛協力をして頂いたことにより生活スタイルが変化し、生活機能の低下が生じる可能性も予測されます。

▶ 感染予防の対策として…

必要な病院受診等もあるため、『外出ゼロ』はケアハウスで生活する上では非常に困難なことです。そのため、感染対策を行うにあたって、入居者様の自己管理やご家族様・支援者様の協力がとても重要となりました。

入居者様の
必要な外出

個別の外出簿へ
外出先での詳細を記入

面会

直接の面会は避ける



アクリルパーティションの設置

▶ 行事の減少とフレイル予防の対策として…

三密を避けたドライブや施設内での調理活動などを多く取り入れ、より多くの交流の場を設けて活動の機会を増やし、施設生活を楽しくして頂けるよう計画致しました。また、入居者様手作りの衣類や小物・絵画等を提供頂き、館内にて作品展示会も開催致しました。



マリンポートへのドライブ



大滝川公園へのドライブ



三密を避けた護国神社参拝



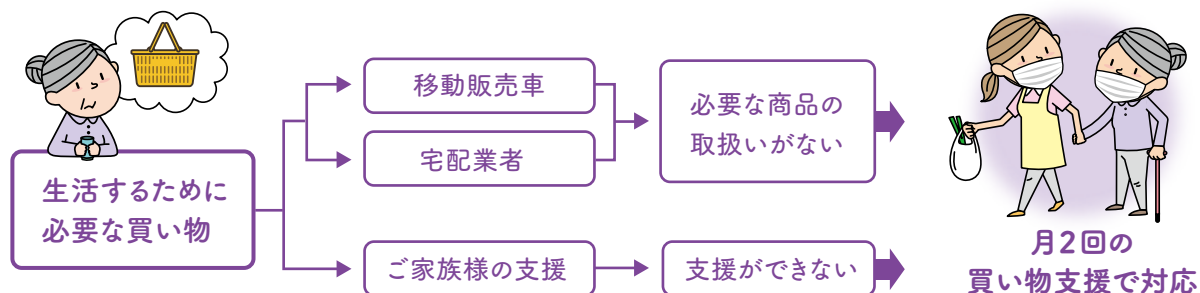
チョコブラウニー作り



入居者様手作り作品の展示会開催

▶ 生活日用品の買い物…

生活日用品やその他の買い物はJAやセブンイレブンなどの移動販売や生協などの宅配の利用とご家族様の協力を頂きました。それでも不足するものについては、月2回職員による買い物支援で対応致しております。



コロナウイルスが終息するまでの間、入居者様やご家族様の協力も頂きながら感染対策を徹底し、出来る限り不便なく快適な施設生活を送れるように支援致します。

定例のご利用者満足度調査を実施しました

第12回 利用者満足度調査 集計結果

【実施対象者】福祉センターサービス利用者若しくはその家族

【実施期間】令和2年7月10日～令和2年9月30日

【回収方法】返送（返信用封筒にて）

ご利用（入居）者及びご家族の皆様へ

当センターが皆様に喜んで頂ける福祉サービスを提供することを目的に実施した第12回「ご利用者満足度調査」につきましては、数多くのご回答をいただきありがとうございました。心から感謝致しております。お寄せいただいた貴重なご意見・ご要望等につきましては、早急に検討させていただきます。改善すべく努めて参りますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

済生会鹿児島地域福祉センター 所長

1 調査基本情報

	人数
調査票配布数	661
調査票回収数	387
回収率	58.5%

2 利用者基本情報

	人数
男	90
女	235
無回答	54
合計	387

3 設問別 選択肢選択件数

【共通設問】

	①	②	③	④	⑤	無回答	合計
問1	0	0	70	57	251	9	387
問2	2	2	54	51	267	11	387
問3	0	6	45	54	271	11	387
問4	0	7	52	58	248	22	387
問5	5	12	70	63	220	17	387
問6	1	3	54	56	256	17	387
問7	4	6	48	47	267	15	387
問8	6	7	76	50	239	9	387
問9	0	3	71	38	264	11	387
小計	18	46	540	474	2,283	122	3,483

※①良くない ②やや良くない ③普通 ④ほぼ良い ⑤良い

4 評価（満足度）

【共通設問の評価】

※「共通設問の評価」の算出方法
については次のとおり

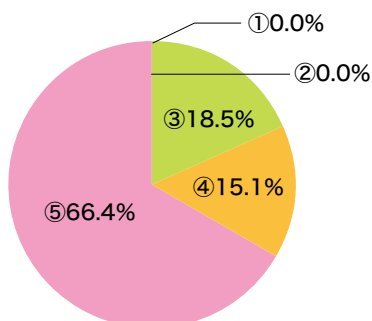
$$\frac{(\text{④と⑤の合計}) \times 100}{\text{合計} - \text{無回答数}}$$

82.0%

【第12回 利用者満足度調査 質問別結果】

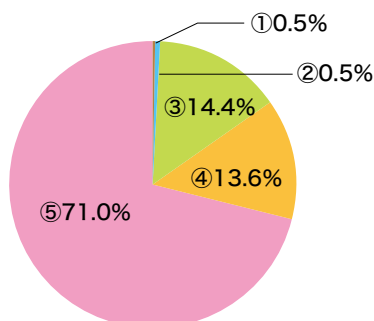
①良くない ②やや良くない ③普通 ④ほぼ良い ⑤良い

問1 職員の身だしなみは適切ですか？



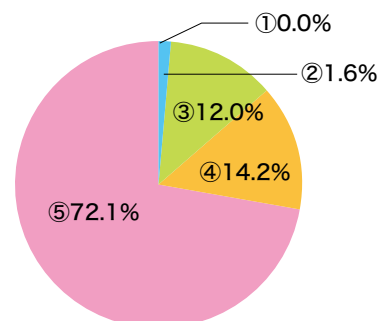
満足度 81.5% 不満足度 0.0%

問2 職員はあなたやあなたの家族のプライバシーに配慮していますか？



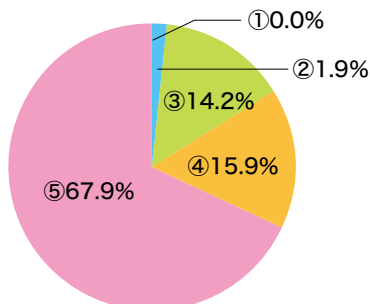
満足度 84.6% 不満足度 1.0%

問3 職員はあなたの考え方や意向を尊重し丁寧に話を聞いてくれますか？



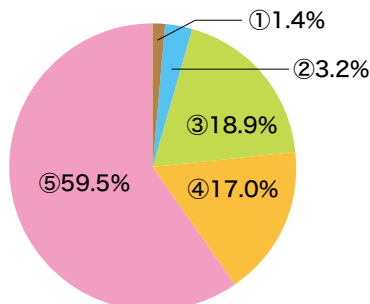
満足度 86.3% 不満足度 1.6%

問4 職員又は法人窓口はあなたの不満や要望をちゃんと聞き、迅速・適切な対応をしてくれますか？



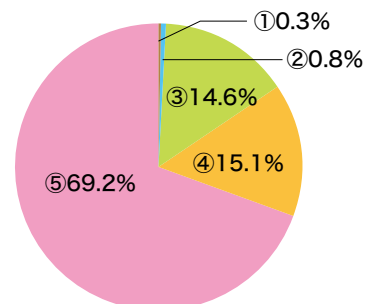
満足度 83.8% 不満足度 1.9%

問5 職員はお互いに連携が取れていて情報が良く伝わっていますか？



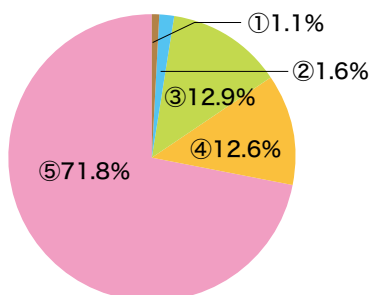
満足度 76.5% 不満足度 4.6%

問6 職員はあなたの体調不良時や怪我などの事故が起きた時に適切な対応をしてくれますか？



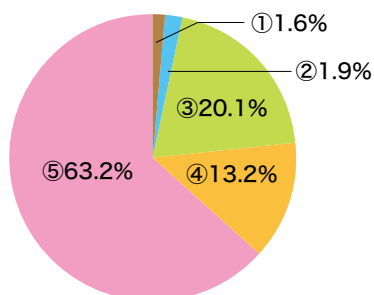
満足度 84.3% 不満足度 1.1%

問7 サービスの利用開始(入居)時に契約書やサービス内容について詳しく説明を受けましたか？



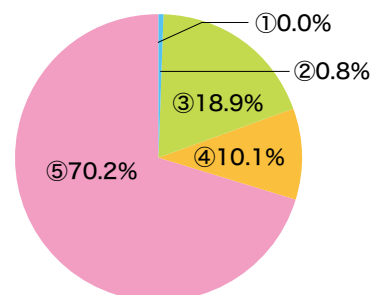
満足度 84.4% 不満足度 2.7%

問8 あなたが今利用している施設やサービスを友人や知人に紹介したいと思いますか？



満足度 76.4% 不満足度 3.5%

問9 職員の言葉使いは適切ですか？



満足度 80.3% 不満足度 0.8%

今回の調査で、問5の【連携と情報共有に関する回答】では、『良くない』の回答も見られ、不満足度が4.6となりました。本年度、コロナ禍における自粛要請のこともあり、利用者様にご不自由・ご心配をおかけしたことと感じております。如何様な状況下にあっても、支援者間の細やかな連携・情報共有の必要性を感じております。お一人おひとりの思いを大切に、真に安心したサービスをご利用頂けるよう、事業所・職員一同更なるサービス向上に努めて参ります。

〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 **FAX** 099-284-8252

シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 **FAX** 099-283-6871

済生会なでこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 **FAX** 099-283-4733

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 **FAX** 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

TEL 099-282-6081 **FAX** 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 **FAX** 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡

〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 **FAX** 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

訪問給食センター 高喜苑

〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-283-4730 **FAX** 099-284-8255

鹿児島県済生会

〔支部〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-210-5460 **FAX** 099-210-5560

編集 後記

編集作業の中、ある雑誌に心揺さぶられる記事がありました。「幸せの鍵は『柔軟心』と朝にあり」。これは禅語の一つ「柔らかくしなやかな心で生きなさい」との教えだそうです。物事を一方向からだけ見るのではなく、365℃で見る心のゆとりが必要だとも書かれていました。日々日常に追われている生活中で、ふと一呼吸付けた一瞬でした。